

地域おこし協力隊“奔走中”

● 移住・定住担当
中平 次郎です。

少し早いですが移住定住促進担当としてこの1年を振り返り、2022年度の取組みを総括したいと思います。

移住相談件数は50-60件の間で推移しており、コロナ禍の前も、今も、年間の相談件数の増減に変化はないように思います。今年度、新たな変化を感じたことは、20代や30代まで、移住相談者の世代の幅が広がったことです。また中京圏からの相談も増え、UターンやJターン、二拠点生活の希望者も少しずつ増え、定年後のセカンドライフを検討する方々に加え、移住相談も多様になりました。

オフィス出社がほぼ不要になり、リモートワークができる大手や外資系IT企業に

勤めている方々が田舎暮らしを望み、ライフスタイルの見直しを検討しています。また、移住のタイミングで新たな事業(創業)を検討している方や、私のように既存ビジネスを移住先で維持し、新たな事業構想や、地域社会への貢献を考えている方々が増えてきているように感じます。

課題は移住希望者がいても、「住むところがない」こと、そして立科町のブランディングがまだまだ弱いことです。引き続き首都圏への情報発信を継続するとともに、残り約1年は民間事業者の事業強化支援のため、町内の産業振興に携わります。



DX

Digital Transformation
デジタル・トランスフォーメーション

DXとリスクリング



こんにちは。デジタル化推進専門官の渡邊です。今回は「リスクリング」について、お話ししたいと思います。

皆さんは「リスクリング」という言葉をご存知でしょうか。「学び直し」と言われることもあります。DXに関しては「新しいことを学び、新しい知識を身につけ、実践して、新しい業務や職業に就くこと」といった「仕事に直結する知識習得」という意味合いがあるのかなと感じています。

ひと昔前は「新しいことは若い人に任せて...」といった考えを持つ方が多かったかも知れませんが、学ぶことに年齢は関係ありません。「人生100年時代」「労働人口減少対策」「生産性向上を目指す」と言われる昨今、老弱男女を問わず誰もがDX時代を生き抜くためにも「リスクリング」が必要だと思います。豊かな人生を送るために、将来への投資のつもりで積極的に知識習得されることをお勧めします。

現在、立科町役場の職員の皆さんもDX人材育成のためのリスクリング計画を進めています。住民の皆さんも一緒に取り組んでみませんか？